

ぱちっと目が覚めた瞬間、嫌な予感が胸をよぎった。遅刻だ。そんな日に限って東京出張の日という運の悪さである。

寝起きの頭を必死に回転させる。今から五分以内で、服を着替えて、タクシーに乗ればなんとか間に合う。

急いで準備し、大通りに出る。が、なかなかタクシーが捕まらない。タイムリミットが迫る中、一台のタクシーが通りがかった。私は手をぶんぶん振ってアピールするも表示は「回送」。

万策尽きた、と思った瞬間、タクシーが止まり、ドアが開いた。近づくと運転手さんが

「急いでるんやろ、はよ乗り！」

と言ってくれた。私は

「ありがとうございます！新大阪まで、急ぎでお願いします！」

と勢いよく返事した。運転手さんは

「よっしゃ！抜け道知ってるし安心して。しかし、えらい形相やったなあ。ちょっと休憩しようとしてたけど、思わず乗せてしもたわ。」

と笑いながら言った。そして無事に新大阪に着いた時、ビニール袋を渡された。中にはクリームパンとコーヒー。戸惑う私に、

「朝ご飯たべてないんやろ、これ、新幹線の中で食べて。お腹痛くなってもおっちゃんは責任持たへんけどな。」

と、豪快な笑顔を返してくれた。何かお礼させて欲しいとお願いしたのだが、「ええよ、二百円くらいやし。その代わり街で困っている人がいたら助けてあげて。席を譲るとか、そんな事でええから。ほな。」

と、言い残して、車は去ってしまった。ちょっとした事かもしれない。けれど本当に困っている時に、見ず知らずの人からの優しい行動は、心に染みる。なかなか実際には、するほうも、されるほうも勇気がいる。私も、自然とそういう行動ができるようになりたいと強く思った。